



大阪科学・大学記者クラブ 御中

2020年10月30日
大阪市立大学

ベンチャーの存亡を分ける「ピボット」が明らかに！

国内バイオベンチャー企業が 経営戦略の転換を選択する3つの要因を実証

<本研究のポイント>

- ◇実証研究の蓄積が少ない国内バイオベンチャーにおける経営戦略の転換（ピボット）の決定要因について、経営課題への対応の視点および経営者の心理的な側面から定量的に実証。
- ◇さまざまな要因の中で特にバイオベンチャーに対するピボットに影響を与える要因を峻別した点は新規性を持つ貢献である。
- ◇ピボットについての経験的な実証研究の蓄積は、バイオベンチャーに対して実務・学術両面から支えとなることが期待される。

<概要>

大阪市立大学大学院経営学研究科森口文博大学院生（後期博士課程2年）、同研究科山田仁一郎教授、横浜市立大学大学院データサイエンス研究科黒木淳准教授は、バイオ分野におけるベンチャー企業148社を対象として、経営戦略の転換（ピボット）を行う要因を定量的に実証しました。

近年、ベンチャーやスタートアップ企業にとってピボットの重要性は注目されているものの、ピボットの決定要因について実証的に明らかにした研究はほとんどありませんでした。本研究の実証の結果「品質管理対応ができていないほど、ピボットしにくい」、「外部環境の把握ができていないほど、ピボットしやすい」、「CEOに創業メンバーが含まれていると、ピボットしにくい」ということが分かりました。

本研究結果は、日本ベンチャー学会誌『VENTURE REVIEW』№36（9月15日発行）に掲載されました。

【発表雑誌】日本ベンチャー学会誌『VENTURE REVIEW』№36 2020年9月15日

【論文名】バイオベンチャーのピボット—実態と要因分析—

Pivot of bio venture firms—The current situations and its determinants—

【著者】森口文博（大阪市立大学経営学研究科後期博士課程）、山田仁一郎（大阪市立大学）、黒木淳（横浜市立大学）

【掲載URL】https://dlisv03.media.osaka-cu.ac.jp/il/meta_pub/G0000438repository_18834949-36-13

<研究の背景>

本研究は、2018年度に国内でのアカデミアの医療系シーズの実用化における課題などを明らかにすることを目的とした「医療系ベンチャーに関する意識調査」のアンケート調査結果をもとに実施したものです。

<研究の内容>

ベンチャーやスタートアップ企業が創業から成長、そして出口（M&A や株式上場）を目指すプロセスは、あらゆる経営環境やトップ・マネジメント・チームにおける心理的要因などが複雑に絡み合っています。本研究では、ベンチャー企業やスタートアップ企業がその生き残りや成功に影響を与えるとして近時注目されている「ピボット」という経営現象にスポットを当て、その実態と要因を分析する研究です。

特に本研究では、国内バイオベンチャー148 社から取得したアンケートデータを対象に、他のベンチャー企業と比べて事業不確実性は相対的に高く、ピボットを行うか否かを意思決定しにくいバイオ分野のベンチャー企業がピボットを行う要因について調査し、経営課題への対応の視点では、「品質管理対応ができていない企業ほど、ピボットしにくい」「外部環境の把握ができていない企業ほど、ピボットしやすい」という結果を見出しました。また、経営者の心理的な側面では、「CEO に創業メンバーが含まれていると、ピボットしにくい」という結果を見出しました。

<期待される効果>

ベンチャーやスタートアップ企業が、経営戦略としてピボットの選択を検討するにあたり、理論的にも実務的にも重要な検討材料となりえると考えられます。

<資金情報>

本論文は、科研費(19K01891)および平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))の助成を受けた研究成果です。

【研究内容に関するお問い合わせ先】

大阪市立大学経営学研究科
教授 山田仁一郎
yamada@bus.osaka-cu.ac.jp

【報道に関するお問い合わせ先】

大阪市立大学 広報課
担当： 安田美帆
TEL：06-6605-3411
Email：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp